

今井の

石の上にも三千万年



僕が愛してやまない三崎層群の石のお話。

土佐清水各地で使われている三崎石の話

かつて三崎地区で石材として採掘されていた砂岩を「三崎石」と呼び、土佐清水各地で利用されていました。爪白海岸近くの海底に沈んでいる石柱も多くは三崎石製です。皆さんの家の近くの石段や石垣、石碑などにも、三崎石が使われていることでしょう。三崎石を見分けるポイントは①手触りがザラザラ、②板状に加工されている、③線状の模様がたくさん入っている、の3点です。特に注目したいのが③線状の模様。この模様は堆積構造といい、主に砂粒が水や風によって運ばれながら堆積することでできます。石材では様々な種類の堆積構造を観察することができます。自作の砂のおもちゃでも再現できますので、見比べてみるのも面白いかもしれません。

ところで、なぜ三崎石は土佐清水各地で使われていたのでしょうか？その理由の一つに「軟らかさ」があります。土佐清水の岩石の多くは、圧力を受けてとても硬かったり、ひび割れが多かったりして、加工が難しそうです。対して三崎石は、比較的軟らかく、ひび割れも少ないので、石材に向いていました。しかし軟らかいということは、風化侵食作用の受けやすさにも関係します。せっかく石碑をつくっても、風化侵食作用によって短期間で表面が崩れて字が見えにくくなってしまうため、石材としてはマイナスの特徴です。その一方で、三崎石（のもととなる岩石）がもつ風化侵食作用を受けやすいという特徴は、竜串湾の豊かな海をつくり出しています。激しい風化侵食作用によって海岸や海底は複雑な地形となり、そこにはサンゴやウニ、貝など、殻を持つ生き物たちがたくさん暮らしています。生き物の殻の欠片と、岩石が崩れて細くなった砂とが混じり合い、やがて竜串湾の一番奥に堆積してできたのが、アカウミガメが産卵にやって来る桜浜です。

竜串ビジターセンターでは、今後も大地・生き物・人のくらしの関係が体感できるイベントを開催していきますので、ぜひご参加ください。

(ジオパーク専門員・今井 悟)

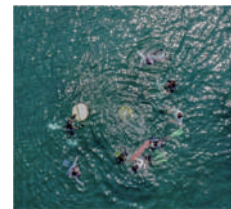
うみのわ topics /

この夏行われたイベントをご紹介します。イベントの詳細はジオパークのWEBページに掲載しているので、覗いてみてください。

8/22

シュノーケリングで 爪白海底石柱群を 覗いてみよう！

爪白海岸に沈む謎の石柱。これを科学的に研究している JAMSTEC（海洋研究開発機構）の谷川研究員と一緒に海底をシュノーケリングで覗くイベント。天気



も海の透明度もバッチリ。来年の夏はロマン溢れる石柱を見に爪白海岸に潜ってみては？

8/29

旅する砂のものがたり

市民図書館と合同で行ったこのイベントでは、地層を再現する砂のおもちゃを作ったほか、砂が世界を支えていることがわかるクイズ、朗読会 fun による海にまつわる文学作品の朗読も。砂のおも



砂のおもちゃ

ちゃを作って、旅する砂の軌跡の再現にチャレンジしてみてください！

9/5

ウミガメ入門

高知大の斉藤先生がかわいい赤ちゃんウミガメを連れてきてくれたこちらのイベント。実際の子ガメに触れられるまたとない機会でした。可愛い子ガメから、地球環境のことや私たちの暮らしのことを考えてもらうきっかけになりました。



ジオパークのWEBページにウミガメの魅力満載のインタビュー記事などを掲載中。

イベント予告！

3D デジタル技術で 地震津波災害の記録を未来へ残そう！

高知県内各地に残されている過去の災害について記録した石碑。海洋研究開発機構（JAMSTEC）では、これを3D化して、保存するプロジェクトを行っています。

11月15日、最新の3Dデジタル技術を活用した地震津波碑を学ぶイベントが竜串VCうみのわで開かれます。対象は小学5・6年生と中学生です。石碑にかくされた新しい発見に出会えるかも？

主催：海洋研究開発機構（JAMSTEC）
協力：土佐清水ジオパーク推進協議会

3D化した三崎十字橋碑



発行

土佐清水ジオパーク推進協議会 〒787-0450 土佐清水市三崎今芝 4032-2
TEL 87-9590 MAIL geopark@city.tosashimizu.lg.jp

WEB

